

高田城主一覧表

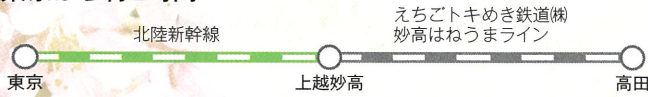
松平忠輝の入封は福島城主からとした

順	城 主	入封～転封	在封年月	石 高	支 配 地
1	松平 忠輝	慶長15年閏2月3日 川中島から 元和2年7月5日 改易	5 年 6か月	75万石 (但し、45万石 60万石の 諸説あり)	越後一円 川中島四郡
2	酒井 家次	元和2年 高崎から 同4年3月 松代へ	2年未満	10万石	頸城郡の一部 刈羽郡30か村
3	松平 忠昌	元和4年3月 川中島から 寛永元年3月15日 北ノ庄へ	6 年	25万石	頸城・魚沼・刈羽 三郡のうち
4	松平 光長	寛永元年3月15日 北ノ庄から 延宝9年6月26日 改易	57年 3か月	26万石	頸城全部 魚沼・ 刈羽・三島・信濃 埴科各郡のうち
	勤番時代	天和元年 8月10日 貞享2年12月11日	4 年 5か月		
5	稲葉 正通	貞享2年12月11日 小田原から 元禄14年6月14日 佐倉へ	16年 7か月	10万 3千石	頸城・刈羽・三島 三郡のうち
6	戸田 忠真	元禄14年6月14日 佐倉から 宝永7年閏8月15日 宇都宮へ	9 年 2か月	6万7千 850石	頸城・刈羽二郡の うち、ほかに河内 にて一万石
7	松平 定重 定達 定輝 定儀 定賢	宝永7年閏8月15日 桑名から 寛保元年12月1日 白河へ	31年 3か月	11万 3千石	頸城郡のうち 奥州のうち
8	榊原 政永 政敦 政令 政養 政恒 政敬	寛保元年12月1日 姫路から 明治4年7月14日 廃藩	129年 9か月	15万石	頸城郡のうち 6万7千石、 のち12万石 奥州四郡のうち 8万5千石、 のち3万石

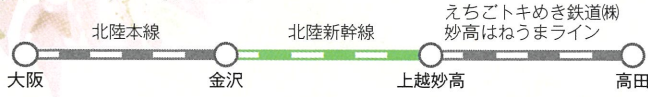
スタンプ押印スペース

北陸新幹線利用の場合

東京から約2時間



大阪から約4時間30分

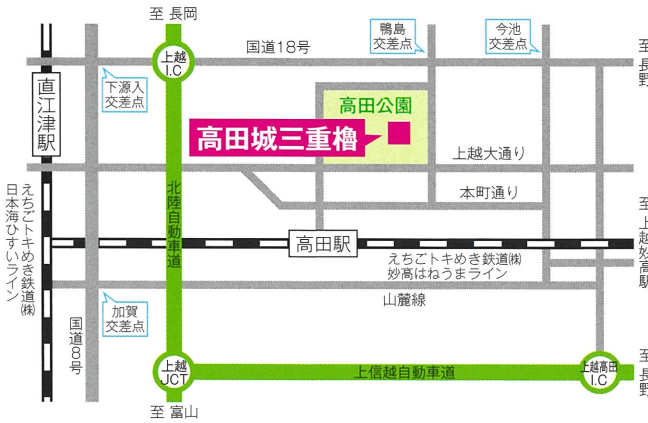
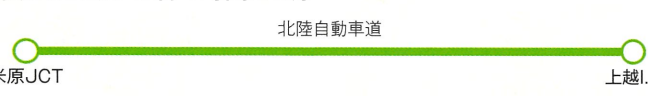


高速道路利用の場合

東京方面から約3時間30分



関西方面から約4時間20分



入 館 料

	個 人	団体 (20人以上)
一 般	300円	一人につき150円
小・中・高生	150円	一人につき70円

※市内の学校に通う小・中学生は無料

休 館 日

月曜日 (月曜が休日のときは翌日)、休日の翌日、
12月29日～1月3日

開館時間

午前9時～午後5時

平成30年6月 増刷

高田城三重櫓

〒943-0835 新潟県上越市本城町6-1

☎025-526-5915

高田城三重櫓



上越市

高田城の歴史

●松平忠輝の入封

慶長3年(1598)春日山城主上杉景勝が会津に転封となり、替わって越前北ノ庄(福井市)城主堀秀治が入封しました。堀氏によって福島城が築城されましたが、同15年(1610)に御家取り潰しとなり、松平忠輝が信濃国川中島から入封しました。忠輝は徳川家康の六男であり、徳川と豊臣の抗争が激化する中で、豊臣家の重臣前田利常を牽制するため、交通の要衝である福島城に置かれたものと推定されています。

●忠輝、菩提ヶ原に高田城を造る

忠輝は慶長19年(1614)に天下普請(幕府の命による工事)として高田城築城に着手しました。普請には上杉景勝(出羽米沢城主)、前田利常(加賀金沢城主)など13の大名が任命され、総裁には忠輝の舅伊達政宗が就任しました。

築城された場所は、高田平野の中央よりやや西に寄った地点で、当時は菩提ヶ原と呼ばれていました。地形を見ると、自然堤防の周りに蛇行していた河川を利用して外堀を形成するなど、関川の自然堤防を巧みに利用していることがよく分かります。

●築城期間は4か月

高田城の普請で特筆すべきことは、竣工までの期間の短さです。諸説はありますが、慶長19年3月15日に着手し、7月上旬には一応の完成を見えています。外堀を含めると60haを優に越える城郭が、約4か月で出来上がった背景には、大坂の陣を控えて、豊臣の重臣を牽制し江戸の背後を固めたものといわれています。

●高田城二つの特徴

平城の高田城には、二つの特徴があります。一つは天守閣が建築されなかったこと、二つ目は石垣が積まれず、全体に土塁をめぐらしていることです。その理由は、豊臣家との決戦を間近に控え、完成を急ぐ必要があったからだと考えられています。

築城当初の櫓は二重の櫓でしたが、寛文地震のあと、三重の櫓に生まれ変わりました。また近代には二の丸・三の丸の土塁がすべて撤去されてしまいましたが、本丸の土塁は築城当時の威容を400年が経過する現代に伝えて、高田城の見どころの一つとなっています。

●城下町の様相

高田城下の街並みは、北と南から北国街道(奥州道・信濃道)を、そして西から北陸道(加賀街道)を引きこんで、碁盤目のように整然と町割りされています。城を最も東に配置して関川で囲い、城の西に接して家臣団の屋敷を構え、町人はその西にほぼ南北に走る北国街道に沿って町を形成しています。最も西には寺を2列に並べて寺町を形成しましたが、この寺町は現在でも60余箇寺が現存し、日本でも有数の寺町といわれています。



▲軒平瓦 (発掘調査出土品)



▲軒丸瓦 (発掘調査出土品)



高田城三重櫓のある高田公園は、「日本の歴史公園100選」の一つに選定されています。

春には日本三大夜桜、夏は東洋一といわれる蓮を楽しむことができます。

高田城三重櫓の再建

現代によみがえった高田城三重櫓は、多くの市民要望に応え、上越市発足20周年記念事業として建設しました。

築造に当たっては、絵図や古文書の検討、発掘調査など詳細な調査・研究を行い、設計にいかしました。

規模は、稲葉正通時代の「高田城間尺図」にある数値とほぼ同様で、外観は松平光長時代の「本丸御殿絵図」を参考としました。

このような史実に基づいた木質構造建築による復元は、本物志向の時代の要求にあった再建理念として、今後の城郭建築に新たな方向性を示したものとされています。



▲高田城間尺図 (上越市立歴史博物館所蔵)

主な展示品

高田城三重櫓は本体そのものが学術的な価値を持つ建築物ですが、内部の1階と2階には高田城に関する資料を展示しています。

高田城間尺図・高田城略年譜・歴代城主・榊原藩歴代藩主系図等のパネル・鯨・甲冑・瓦・陣笠ほか